

学びの 広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



親子で楽しむふれあい遊び

～ねまーる広場「きらきらタイム」～

親子でふれあい遊びを楽しむ「きらきらタイム」が、6月26日にねまーる広場で開催され、親子6組が参加しました。

きらきらタイムは、絵本の読み聞かせや身体を使った遊びなどとおして、子どもたちのふれあいやお母さんたちのコミュニケーションの場を作るために開催しています。

この日は、スタッフが演奏するピアノに合わせて手を動かしたり、歌を歌ったりするなど、親子のふれあいを楽しみました。

今後の開催日は、ねまーる広場内の掲示板等でお知らせします。



▲ピアノ演奏に合わせて手を動かす親子

地域の魅力を伝えるために

～定期講座「北秋田イングリッシュサポーター養成講座」～

定期講座「北秋田イングリッシュサポーター養成講座」が、6月13日から市民ふれあいプラザでスタートしました。

この講座は、北秋田市の魅力を再発見し、英語で発信することを目標としています。

初回は、受講生14人が参加し、講座の内容を確認したほか、講師の高橋美由紀さんの自己紹介や受講生同士でペアを作り、英語でお互いを紹介しました。2回目は6月27日に行われ、テキストを使い英会話の基本を学びました。

次回からは、グループごとのプレゼンテーション発表に向けた英会話のレッスンもしていきます。



▲英語でお互いを紹介する参加者たち

第12回北秋田市

民俗芸能大会

～民俗芸能の魅力を披露～

- 【出演団体】
- ▽阿仁前田獅子踊保存会
 - ▽福田獅子舞保存会
 - ▽綴子下町大太鼓保存会
 - ▽阿仁からめ節保存会
 - ▽富根報徳番楽保存会(能代市)

【日 時】 8月20日(日)

開場:13時/開演:13時30分

【会 場】 北秋田市民ふれあいプラザ

【問合せ】 生涯学習課文化係 ☎62-6618

入場
無料



学びの広場

平成29年度北秋田市文化祭 出演団体・作品作品の募集

☎62-6618

平成29年度北秋田市文化祭の開催にあたり、演示出演団体、展示作品を募集します。

希望される方は、コムコムまたは各地区公民館に置いてある申込書に記入のうえ、申込みください。

◆会場・日時

《演示部門》北秋田市文化会館
10月28日(土)～10月29日(日)

《展示部門》鷹巣体育館

10月28日(土)～10月30日(月)

◆演示出演団体募集

《内容》グループによる

伝統芸能・舞台芸能

《時間》1グループ最長20分まで

※日程や時間帯については、申込み時に希望をとります。

◆展示作品募集

《内容》市在住の個人および

グループの作品

《出品制限》希望のスペースや、

出展数により調整します。

◆申込締切(両部門共通)

8月18日(金)

◆申込先

生涯学習課文化係

☎62-6618

FAX 62-1669

七日市長岐邸 お盆の一般公開

☎090-6101-8906

彩葉会水彩画展を同時開催します。

期間中はガイドがご案内します。

期間 8月13日(日)～15日(火)

時間 10時～15時

『木精くえこ』第60号作品募集

☎72-3259

書く生涯学習誌『木精』の作品を募集しています。

体験談、エッセイ、伝聞、詩、小説、短歌、川柳などのジャンルや、

作品の長さは問いません。

対象 北秋田市在住または出身の方

原稿 手書きの場合は原稿用紙

パソコンの場合は「Word」A4

締切 11月30日(木)

※作品にはタイトル、著者名(ペン

ネーム可)を付記し、「住所」「氏名

「連絡先電話番号」を添えて申込み

ください。

伊勢堂縄文館をシミュ

レーションガイドがご案内します

☎62-6618

期間 8月5日(土)～20日(日)

時間 9時～16時

※7日(月)は縄文館休館です。

※都合により案内できない場合があります。

ふるさとの文化財

「縄文時代編」

19

○赤漆塗注口土器(漆下遺跡出土)

「漆」は漆器などで現代の私たちに馴染み深いものですが、その利用は縄文時代に始まり、今のところ約9000年前まで遡ることができます。

市内の遺跡でも漆を塗った土器などが見つかっています。写真はこのコーナーに度々登場する漆下遺跡で出土した赤漆塗りの注口土器です。高さ16cmでやや頸の長い壺のような胴部に注ぎ口が付くものです。残念ながら注ぎ口の部分は壊れて無くなっています。土器の表面全体に塗られた赤漆の「赤色」が目立ちます。土器の特徴から縄文時代後期後半の今から3500年前のものとして推定されます。

この土器に塗られた漆の化学成分析によると、朱(辰砂)を混ぜた赤漆を重ね塗りしたものを、ベンガラ(酸化第二鉄)を混ぜた赤漆で塗り直したものです。

漆下遺跡ではこのような赤漆塗りの土器が多数出土していますが、注目されるのは、漆製品の製作工

程を示す資料がまとまって見つかったことです。

赤色の顔料となるベンガラ塊、漆を貯蔵した漆入りの土器、植物の繊維を編んだものに漆を塗った製品、0.6mmの太さの糸の表面に赤漆を塗ったものをコイルのように巻き絡めた糸玉などが見つかっています。

漆入り・漆付着の土器は合計80点あまりが見つかかり、中に残っている漆の状況から漆の精製段階が分かります。

漆はくろめ・なやしなど少しずつ水分を減らし、精製していくため、非常に繊細な管理技術が必要です。縄文時代の北秋田市でも漆を巧みに利用し、漆製品を製作していた様子がうかがえます。



漆下遺跡の赤漆塗注口土器

▽紹介者/北秋田市教育委員会生涯学習課文化係